

第 60 回 大阪市廃棄物減量等推進審議会 会議要旨

1 日 時 平成 29 年 3 月 22 日（水）10 時 00 分から 11 時 50 分まで

2 場 所 大阪市環境局 第 1・2 会議室

3 出席者

（委 員）

貫上会長、花嶋副会長、足立委員、北井委員、木下委員、斎藤委員、杉本委員、武智委員、中野委員、東田委員、増田委員、松本委員、鷺尾委員

（大阪市説明者）

北辻環境局長、松本環境局理事兼エネルギー政策室長、青野総務部長、大東改革担当部長、深津事業部長、川島企画課長、西尾事業管理課長、清原家庭ごみ減量課長、宮崎一般廃棄物指導課長、山下企画課長代理（司会）

（大阪市・八尾市・松原市環境施設組合）

蓑田事務局長、松田施設部長

- 4 議 題
- ・平成 28 年度のごみ量等について
 - ・ごみ減量施策（生ごみ減量）の実施状況について
 - ・平成 29 年度のごみ減量施策について
 - ・その他（ごみ収集輸送事業の効率化の方向性）

5 議事要旨

（1） 大阪市から、平成 28 年度のごみ量の状況と家庭系ごみ組成分析調査の結果速報について、現在実施中の生ごみ減量施策について、平成 29 年度の新たな施策として「古紙・衣類の持ち去り行為等の規制」「スプレー缶、カセットボンベ類の分別収集」について説明があった。

また、ごみ収集輸送事業の効率化の方向性について説明があった。

（2） 意見等の概要は以下のとおり

ア 廃棄物減量等推進員（ごみゼロリーダー）が、地域の住民にごみ減量についての説明を行えなければ普及啓発の効果が限られてしまうため、地域での自主的な説明会を開催するよう働きかけるなどの必要があるのではないか。また、そのための具体的な支援が必要ではないか。

イ 食品ロスの削減について、抽象的に「減らしましょう」というだけでは、減らないと思う。楽しいキャッチフレーズをつくるなり、具体的な事例を多く出すなどして、市民が前向きに取り組めるような普及啓発が必要ではないか。

ウ 古紙・衣類の持ち去り規制について、過料による抑止力が十分にあるのか、きちんと検証する必要があると思う。

6 会議資料

第 60 回大阪市廃棄物減量等推進審議会 資料